

教育部会自己点検・評価報告書（様式1）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：学際

部会長名：山内乾史

作成者名：山内乾史

概要（2000字）

総合教養教育部会（以下、「部会」と略す。）は 2015 年度より学際教育部会となり、16 科目、のべ 22 コマ（44 単位）の全学共通授業科目を全学部生に提供している。16 科目のうち、「神戸大学の研究最前線」、「社会と人権」、「国際協力の現状と課題」、「神戸大学の研究最前線」、「職業と学び」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」、「神戸大学史」、「社会科学のフロンティア」、「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「環境学入門」、「企業社会論」、「社会基礎学（グローバル人材に不可欠な教養）」、「男女共同参画とジェンダー」の 13 科目が教養原論、「総合科目Ⅰ」3 科目が「その他必要と認める科目」に区分される。「総合科目Ⅰ」の 3 科目はそれぞれ、「高等教育論」「EU 論」、「ボランティアと社会貢献活動」という副題をもつ。

「社会と人権」は前期・後期に 2 コマずつ計 4 コマ、「神戸大学の研究最前線」と「神戸大学史」、「社会基礎学」は前期・後期にそれぞれ 1 コマずつ開講される以外は前期・後期のいずれかに 1 コマ開講される。なお、「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」は集中講義であり、通常の授業がない 7 月～9 月の土・日などに 2・3 日をかけて実施される。また、「社会基礎学」は土曜午後に実施される。さらに「社会科学のフロンティア」は今学年度を持って閉講する。

2015 年 12 月 1 日現在、104 名の教員が部会構成員となっている。そこには「神戸大学史」の授業の一部を担当されている学長も含まれる。82 名の所属部局は学長（1 名）、大学教育推進機構（3 名）、人文学研究科（3 名）、国際文化学研究科（7 名）、人間発達環境学研究科（8 名）、法学研究科（11 名）、経済学研究科（9 名）、経営学研究科（5 名）、理学研究科（1 名）、医学研究科（4 名）、保健学研究科（4 名）、工学研究科（5 名）、農学研究科（5 名）、海事科学研究科（9 名）、国際協力研究科（4 名）、システム情報学研究科（2 名）の 14 研究科、海事科学研究科附属国際海事研究センター（2 名）、海事科学研究科附属練習船深江丸（2 名）、社会科学系研究府（1 名）、留学生センター（2 名）内海域環境教育研究センター（7 名）、環境保全推進センター（1 名）、都市安全研究センター（4 名）、連携創造本部（3 名）、男女共同参画室（1 名）などである。のべ 22 コマの授業に対して、コーディネータ等を含めた授業担当者の数が、部会長、部会幹事、非常勤講師を除いて 104 名もいるのは、部会が提供する科目にオムニバス方式の授業が多いからである。

部会長及び部会幹事は大学教育推進機構専任教授が勤めており、今年度は部会長は山内教授が、幹事は米谷教授と近田教授が務めた。また、新たに ESD 教育部会が設置され、ESD 科目担当者がそちらに全員異動するほかに、「阪神・淡路大震災」の担当者も同部会に移動した。

昨年度、全学共通教育部年次計画に従い自己点検・評価及び外部評価を実施した。自己点検・評価作業では、シラバスの精査、成績分布・学生授業評価アンケートの分析、各科目コーディネータに対するヒアリング、授業参観を行った他に加え、広報室の協力を得て「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」の授業風景をビデオ撮影し、編集し動画として大学ホームページに掲載し一般公開したが、外部評価委員その他から寄せられたご意見をもとに各科目コーディネータ、担当者が授業改善に励んできた。

とくに、平成 27 年 2 月 20 日、3 名の外部評価委員を学外から招き、大学教育推進

機構長、全学共通教育部長（当時）、全学共通教育部評価・FD 専門委員長の臨席のもとで、部会外部評価委員会を開催した。ここでは、部会長が部会自己点検・評価の概要を説明した後、部会長を含む 10 名の科目コーディネータが各科目の概要を説明し、質疑応答を行い、最後に 3 名の外部評価委員から講評をいただいた。その意見をどう受け止め、同授業に反映させるかについては既刊の報告書に記載してある。

今年度の部会提供科目についての自己点検・評価は別紙の通り、16 科目すべての担当者またはコーディネータから評価シートが提出された。（1676 字）

教育部会自己点検・評価シート（様式 1）

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点到る状況（150 字以上）

部会が提供する科目には、人権問題、ジェンダー、国際関係、環境問題といった社会問題やグローバルイシューを扱う科目（「社会と人権」「男女共同参画とジェンダー」「総合科目 I（EU 論）」「国際協力の現状と課題」「環境学入門」「瀬戸内海学入門」）、最先端の自然科学や社会科学をリレー形式で第一線に立つ研究者自ら解説する科目（「神戸大学の研究最前線」「社会科学のフロンティア」）、神戸や神戸大学について学ぶ科目（「神戸大学史」）があり、バラエティに富んでおり、文系・理系に偏らずバランスもよい。また、アクティブラーニングにより学生が学士力を育成・強化するための科目（「海への誘い」「瀬戸内海学入門」ボランティアと社会貢献活動」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」とキャリア科目（「企業社会論」「職業と学び」）があり、学士力やキャリア形成支援に役立っている。今年から新たに「総合科目 I（高等教育論）」が加わった。（401 字）

根拠資料

Web シラバス、及び、授業で配布しているシラバスやガイダンス資料

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

リレー形式・オムニバス形式で毎回異なる担当者が講義する大人数授業（「神戸大学の研究最前線」「社会科学のフロンティア」など）がある一方、小集団に分かれてグループワークやフィールドワークをする少人数授業（「海への誘い」「瀬戸内海学入門」など）があり、それぞれの授業の目的と性格にふさわしい形式で授業を実施している。「瀬戸内海学入門」では班にわかれて実験・測定をさせているが、これは文系学生にも理系の実験を体験させようという目的でなされている。「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」では、Moodle を利用して学生間の学習に関するやりとりをさせることで、授業時間外のグループワークを支援した。（289字）

根拠資料

Web シラバス、教科書・教材、授業中に配布する資料など

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

シラバスの成績評価の欄で、成績評価は授業への積極的な参加、授業中の課題の他、授業時間外にさせるレポート等と期末試験（レポート）を総合的に評価する旨を明示し、毎回の授業で出席確認だけでなく、多くの科目で毎回学生にコメントを書かせて提出させている。オムニバス形式の科目では期末レポートで複数のテーマでレポートを書かせて提出させている。（167字）

根拠資料

Web シラバス、授業中に配布するシラバスやガイダンス資料、レポート課題一覧

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

すべての科目のシラバスを精査したところ、すべての欄にしかるべき記入がなされており、必要にして十分な内容が書き込まれていることが確認された。（69字）

根拠資料

Web シラバス、全学教務委員会・国際教養教育委員会の会議資料

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

どの科目も教養教育の性格上、とくに予備知識をもたずに受講しても理解できるよう、内容と説明の仕方を適切なものにするべく努めている。また、授業内容が十分理解できなかった学生のため、授業担当者が一人の科目ではオフィスアワーを設定している他、授業終了時あるいはメールでコーディネータや TA が学生からの質問に答えている。（154字）

根拠資料

Web シラバス、授業で配布するガイダンス資料やシラバス

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

成績評価は期末試験のみでなく、授業への出席状況、課題の点数などを踏まえて総合的に行っている。成績評価の基準はシラバスに明記されているとともに、いくつかの科目ではガイダンス等で学生に説明している。今年度の各科目の合格率及び成績分布を表と図（前期・後期）に示す。根拠資料の表・図に示す通り、特定の科目で「秀」の割合が5割を越しているものがあるが、他は多くて2割台であり、「優」も科目ごとのばらつきは大きい。成績評価・単位認定は概ね適切である。（220字）

根拠資料

Web シラバス、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス、成績分布、学生授業評価アンケート結果

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

成績評価の方法をシラバスに明示するとともに、毎年、すべての科目の成績評価データをもとに成績分布と合格率を算出し、適切な成績評価がなされているかチェックしている。成績申し立て制度に対応するため成績評価についての資料を5年間保存するとともに、申し立てがあった場合には採点の基準や理由を含め、どうしてそうした成績となったか調査し、ていねいに回答している。（174字）

根拠資料

Web シラバス、成績評価のための資料（答案、出席記録、成績表、集計表等）、成績申し立てに対する回答

基準6 学習成果

6-1【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）

成績分布（5-3-②の根拠資料）からみて学習の達成度は、どの科目も十分であることがわかる。また、毎学生授業評価アンケートの結果から、「総合科目Ⅰ（男女共同参画とジェンダー）」（3.00）、「総合科目Ⅰ（EU論）」（2.50）の2科目以外は3.50以上であり、総合判断も「社会科学のフロンティア」（3.50）と「総合科目Ⅰ（EU論）」（3.00）を除き3.70以上であり、総じて十分学習成果が上がっているといえる。（186字）

根拠資料

5-3-②の根拠資料の表・図、及び、学生授業評価アンケート結果

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

国際文化学部キャンパスに、自習室、総合図書館、共用スペースがあり、授業時間外の予復習や発展学習、レポート作成、試験勉強に利用できるようになっている。それ以外にも、各学部ラーニングコモンズをはじめとする学習スペースがあり、学生の自習や共同研究に利用されている。（130字）

根拠資料

キャンパスマップ、建物の図面、案内板

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

各科目の自己点検・評価シートに明示されているように15科目でガイダンスが行われ、用意した配布資料をもとに、授業のねらい、予定、注意事項、履修上の心得が説明されている。「海への誘い」「瀬戸内海学入門」のように授業開始前に履修希望者を集めて説明を行い、希望者が定員を超えている場合には抽選を行う科目もある。（150字）

根拠資料

自己点検・評価シート、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目（「神戸大学史」「瀬戸内海学入門」「環境学入門」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」もあれば、担当者、コーディネータ、TAがメール等で適宜学生からの質問や相談に対応している科目（例えば「神戸大学の研究最前線」）もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションをしている。（186字）

根拠資料

自己点検・評価シート、メールの記録